

北社会ニュースオ84号

2012年8月16日

発行者： 鈴木壮夫

(1) 8月20日(月)開催 第301回 北社会

講師：渡邊幸雄氏 (高26回) 仙台第二高等学校 校長

テーマ：「伝統が息づく新しい仙台二高」を目指して二高の風景(写真)、二高の現況、育てたい生徒像、私の学校経営等をお話しいただきます。

(2) 7月26日(木)私、鈴木壮夫久しぶりの二高訪問

前夜、仙台市内の白萩ホテルにて吹奏楽部のOB会に参加、6月開催の総体の入場式に二高としては初めて東北高校と一緒に演奏したことを思い出した。1958年、私は三年生、陸上競技場を一周した。一女や宮城学院の席の前を通り過ぎるとき、“あの娘”は気が付いてくれたかなとも思い出した。国分町の店に電話する。ママが「ソーフさん？」と久しぶりなのにすぐ分かってくれた。翌朝、東二番丁のホテルを出て、北一番丁NHKの当時の自宅に向かった。県庁には「復興へ頑張ろう！」と。二高在学当時の通学路を歩いてみたかった。北一番丁を西に向かって歩いた。県庁、消防署、市役所、木町通り、そして知事公館、急な坂、澁橋、広瀬川、我が母校、約4000歩、懐かしくシーンと感ずるものがあった。本日の講師、渡邊校長さんは北社会の発表資料を全てお作りになられて私に提示いただいた。毎回、思うことですが校長室で校長先生にご面会する。その緊張感は在校当時はありえなかった。渡邊校長は昭和30年6月15日のお生れ。私は上中の三年生だった。歴代の校長先生の写真をじっくり拝見しました。校内もご案内いただきました。夏休みに入り、英・数・国の特別授業、ほとんどの生徒が受講していた。女生徒の服装は渋谷・新宿の若者と変わらない。私は違和感は全くなかった。そして、母校の樹林は鬱蒼としていた。でも、もっと環境を改善すべき点多いと痛感しました。午後に再度訪れ、校内周辺を歩いた。「校内環境整備基金」に今年もより多く払込みせねばと思いました。皆さん、同窓の友達にご協力を強く呼び掛けて下さい。文武一道です。

(3) 8月6日(月)北社会世話人会打ち合せ報告～300回を終えて新たな出発を～

「毎回の参加者をより多くするにはどんなことをやるべきか」をテーマに真剣(?)に話し合いました。こんなことを決めました。(A)50才以下の同窓に強く働きかける。講師や世話人をやってもらう。(B)年令差を越える、親密さを増す、友好の集いを開催する。(C)FACE BOOKを活用してより多くの同窓生に北社会の存在をわかってもらう。(D)講師は年一回程度は二高卒業生以外の方をお願いする。

約3時間の打ち合せでしたが世話人は燃えています。ご意見はいつでもどうぞ！

(4) 10月23日(火)開催 第302回 北社会

講師：佐々木賢一氏 (高37回) トライボッドワークス社長

テーマ：本日現在未定です。同氏のご活躍振りはマスコミで耳にしており、仙台が活躍の場と知り、仙台のご出身なのかなと思っていました。今年、5月北陵会の阿部孝一氏から講師のご推薦がありました。北陵会での講演テーマは東日本大震災復興支援活動「ITで日本を元気に！」でした。どんなに会社の業績が厳しくとも下請けの仕事は一切受け付けず、自社開発による商品販売にこだわり、3年後には上場を目指しています。